

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200620		
法人名	特定非営利活動法人 ASA陽		
事業所名	グループホームけやき荘(A棟)		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町小串郷1960番地		
自己評価作成日	平成28年10月6日	評価結果市町村受理日	平成28年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成28年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりを保つ為に、慰問に来て頂いている。(保育園・音楽演奏・フラダンス・ボランティア踊り)
交流会では地域の小・中学校との職場体験を実施している。
他に運動会にも毎年参加させて頂いている。(競技等)
地域とのふれあい交流会では、紅葉祭・サロン会(老人会)・運動会にも参加させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念「住み慣れた地域の中でゆっくりのんびりすごせるようにお手伝いさせていただきます。」の思いを職員は理解し共有している。利用者は、ホームから各郷のサロン会や老人会のグランドゴルフや旅行に参加している。貼り絵作品を地域文化祭へ出展したり、小学校の運動会に参加するなど、地域の住民として楽しんでいる姿がある。又、保育園児やボランティアの慰問、小中学生の職場体験、介護実習生の受入れ等、ホームは地域交流の機会が多く、地域から行事への招待があるなど地域に受け入れられている。利用者はホームでの日々の生活の中で、自分が出来る役割を持ち、職員は利用者の力が継続出来るように工夫し支援している。看取りの支援に取り組み、一昨年、昨年と事例がある。家族の安心と利用者と職員の会話や笑顔があふれるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を掲示し、日々職員・パートの方同士で話し合いをし、会議・申し送りノートでサービス理念を共有している。	基本理念と介護理念があり、ホーム内に掲示している。管理者は各会議や日々の支援の中で職員に理念について話し、周知している。職員は基本理念に沿い、利用者が地域の一員として交流し、ホームでゆっくりのんびり、安心して暮らせるよう理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、七夕祭りなどに参加させて頂いている。散歩の時は地域の方にもあいさつ等を行っている。	自治会に加入し、職員は地域清掃に参加している。利用者と職員は夏祭りや敬老会や運動会など多数の地域行事に出掛けている。また、ホームの餅つきに婦人会が手伝いに来ていたり、保育園やボランティアの慰問、小中学生の職場体験、介護実習生の受入れ等多くの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議、慰問など、地域の方に参加して頂き、ホームの現状を理解して頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では一年間の計画を報告したり、利用者様とふれあって頂き、その際思った事、気づかれた事を聞いて活かしている。	2ヶ月に1度、規程メンバーで開催している。保育園児や婦人会等の慰問に合わせ、会議を実施しており、全利用者家族に参加を呼びかけている。慰問見学の他、ホームの状況報告や参加メンバーとの情報交換が行われているが、議事録は会議の一部の記録に留まっている。	議事録は、会議で出た意見や要望、情報等をホームのサービス向上に役立てたり、これまでの検討事案の経過の振り返りができるものであるため、記録について検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議や地域連携研修会等に積極的に参加し、協力関係を築いている。	認定更新の手続きや運営推進会議の際に利用者状況を伝えており、運営上不明な点があれば役場に質問や相談し、アドバイスを得ている。社会福祉協議会から法律に関する利用者の心配ごと相談等での訪問もある。職員は行政から案内のある研修会や三町ケアセミナーに参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員が身体拘束の研修などにも参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームは、身体拘束排除宣言を行っており、拘束のないケアに取り組んでいる。職員は外部研修を受講し、職員会議で報告し共有しており、新人にも説明している。支援方法や言葉掛けは職員同士で話し合い、注意し合っている。日中は玄関の施錠はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、会議等に参加し、職員同士で話し合いをし、理解する。又、利用者様の家族にも、自宅での様子を伺い、虐待の防止に努めている。		

グループホームけやき荘 (A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様で対象者がいる時は、行政の意見を聞き、対応に心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームを利用者様家族に見学して頂き、十分な説明をし、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者様家族等の意見、要望を聞き、スタッフ会議で運営に反映している。	家族の苦情相談窓口は、明文化し契約時に家族へ説明し、同意を得ている。苦情相談窓口第三者委員の配置や玄関に筆記具を添えて意見箱を設置し、家族の意見要望の抽出に努めている。利用者の誕生日に家族を招待したり、面会時には話し易い雰囲気を中心掛けている。洗濯物の紛失の苦情があり、仕分け手順を改善した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、要望がある時は、その都度話し合う機会を設けている。	職員は、毎月のユニット会議や合同会議の中で意見、提案を出す場がある。日々の業務の中でも出している。管理者は個人面談や食事に誘って話を聞き、勤務希望やまとまった休みの取得など、働き易い職場作りを心掛けている。また、摩耗した滑り止めマットの交換など反映の事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に給料面の説明を行ったり、個別に要望を聴いたりして対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の長所を褒めて伸ばす。業務外でのリフレッシュの為、食事会など行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等で他のホームの状況を聞いたり、相談している。夏祭り、運動会で一緒に参加もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心を確保する為に、自宅での生活、困っている事など、本人、家族等にも要望を聞き、耳を傾け、本人に安心して頂く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事に耳を傾け、家族が安心してホームで過ごせる様に支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が必要とされている支援を見極め、サービス提供に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士として、一緒に配膳、掃除、洗濯物干しなど、本人が喜んで参加して頂ける様に声かけしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、利用者様との外食、病院介助など共に本人を支える関係を築いている。誕生会に家族も参加して頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、知人等に常に面会に来て頂いている。又、馴染みの美容院、レストラン等にも出かけられる様支援している。	職員は、アセスメントの他に家族、友人などとの会話から利用者の生活歴を把握している。家族や友人、知人などの面会が多く、職員支援で馴染みの理美容院へ行っている利用者もいる。入居前に住んでいた地域の老人会の旅行やグランドゴルフを楽しんだり、家族と地元の敬老会へ出席するなど馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に間にスタッフが入り、利用者同士が楽しく会話も弾む様に配慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の相談がある時は、対応し安心して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で本人が困っている事、希望・意見などをさりげなく聞き出し、検討する。	職員は、難聴の利用者にはゆっくり耳元で話したり、気持ちが落ち着かない場合には、自室で昔話をするなど、利用者一人ひとりに寄り添い、会話の中から思いを汲み上げている。知り得た内容は申し送りノートやケース記録に記載し、職員間で共有しており、思いを叶えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を把握し、その人にあつたサービスを提供する声かけをする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態がいつもと違う時は、その人の状況を把握し、申し送り等で確認しあう。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議でモニタリングに参加して意見交換を行っている。又、家族、本人の意見・要望なども反映し、計画書を作成している。	長期1年短期3ヶ月の目標を立て、本人と家族の意見・要望を取り入れ計画を作成している。ケアマネージャーは、3ヶ月ごとにスタッフ会議で、ADL表や日課表を基にモニタリングを行い、職員に状況を確認しながら、計画の見直しを行っている。家族には面会時や電話で説明し、同意を得て計画を実行している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、いち早く気づき、職員間で情報を共有し、見直しが必要な場合は、計画を立て直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況により、その都度柔軟な支援・サービスに取り組んでいる。		

グループホームけやき荘 (A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物・七夕祭り・夏祭り・サロン会等に参加し、本人が楽しみながら、参加されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、又はスタッフが一緒に通院し、往診も行っている。納得のいくように主治医から適切な医療を受けられるよう支援している。	これまでのかかりつけ医の継続や協力医への移行もできる。町内の医療機関の場合、職員が通院支援しており、遠方の場合は家族が付き添っており、受診結果を聞いている。受診内容は申し送りノートにて共有している。急変時の対応については、職員に周知しており、利用者が適切な医療を受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医に受診、往診をし、安心して頂く。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、心身共に低下する恐れもあるので、主治医、又家族ともよく相談し、早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人、家族の意向に耳を傾ける。又、主治医と職員、地域の関係者と共に支援に取り組む。	ホームは看取りに関する指針を作成しており、契約時に本人・家族へ説明している。管理者は家族の協力なしには看取り介護は行えないとの考えであるため、段階に応じて、家族と主治医、職員で話し合いを行い、その都度同意書を得ている。これまでに事例もあり、ホームは出来る限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が年1回のAED講習会等に参加し、ケースを想定しながら勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に避難訓練、消防訓練を利用者様と行っている。地域の方も参加されている。	年2回消防訓練を実施し、昼間・夜間想定で各ユニットごとに通報・消火・避難誘導の訓練を行っており、利用者も避難誘導訓練に参加している。また、緊急対応マニュアルを作成し、地震想定訓練も行っている。消防署立会いや防災設備業者参加の際には、アドバイスをもらっている。ただし、過去1年間の訓練には地域住民の参加がない。	ホーム職員だけの避難誘導には限界があり、地域の協力は欠かすことができないと思われるため、消防訓練に地域住民の参加を促す工夫に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重を確保し、さりげない声かけでプライバシーを損ねない思いやりのある対応をする。	個人情報の取り扱いが明文化し契約時に家族へ説明し、同意の署名を得ている。職員は採用時に守秘義務の誓約書を提出している。居室へ入る時は声掛けやノックし、排泄支援時や入浴時は羞恥心に配慮した支援を心掛けている。ただし、トイレに個人名を書いたパッドが置かれており、居室のドアに小窓が設置されている。	職員の業務負担軽減やリスク管理面があると考えられるが、利用者の尊厳やプライバシーを守る観点から、配慮と工夫を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニュー・行きたい所・やりたい事などをさりげなく意向を聞き、本人が自己決定できるように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調も観察しつつ、レクリエーション、手作業、ドライブ等の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を尊重し、その人らしい服装、身だしなみに心がける。外出の時はその場面に合った服装をして頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全な環境を整え、体調を見ながら、利用者と職員と一緒に準備、片付けをしている。	献立は利用者の希望を取り入れ、職員が立てている。利用者の嗜好に対応し、食べやすい形状で作っている。利用者は買い出しに職員と一緒にいたり、下ごしらえや片付けなど出来る所を手伝っている。庭でのバーベキューやレストランでの外食やうどんを食べに行っている。又、運動会での弁当など楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は常食、キザミ、ミキサー食など体調にあわせ対応している。水分量が少ない人には、工夫して、清涼飲料、ジュースなども摂取してもらう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりにさりげなく声かけしている。自力で出来ない方は、口腔ケアのお手伝いをしている。義歯、歯の不具合があれば受診を行っている。		

グループホームけやき荘 (A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの近い方には、ストレスにならない様に見守り、時には声かけし、チェックする。一人ひとりさりげない声かけでトイレ誘導もスムーズに行っている。	排泄チェック表を付け利用者の排泄リズムを職員は共有、把握しており、日中はトイレでの座位排泄を基本として支援している。さらに利用者の様子からも察知して声を掛け誘導している。排泄の自立支援を理解し、職員間で利用者の排泄状況を検討している。おむつからリハビリパンツへ改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック用を利用し、食事・水分で予防している。食後にトイレに座って頂き、排便がスムーズになるように習慣づける。運動等、取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方には、再度声かけし、タイミング、気分を損なわないように声かけする。バイタルチェックを行い、体調を見ながら支援する。	入浴は週2、3回を基本としている。利用者の気分や状況に対応し、時間や声掛けを工夫し支援している。職員と1対1の入浴であるほか、車椅子の利用者は職員2人介助で湯船に入れるよう支援している。菖蒲湯や柚子湯など入浴を楽しめるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、居心地の良い布団、寝巻等で安心して眠れるように、最後の声かけもする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し、処方の変更となった場合は注意深く観察する。申し送り帳を確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホットケーキ作り、おはぎ作り、かんざらし作り等をスタッフと利用者様が一緒に楽しみながら、参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い日は戸外に出て散歩したり、近場の足湯、自宅付近へのドライブに出かける。	少しでも天気の良い日は、散歩や日光浴、ドライブに出掛けている。地域の行事に参加したり季節毎の花見や足湯など、車椅子の利用者も一緒に毎月、数回の外出がある。職員は「出来るだけ外出してもらいたい」の思いを共有し、個別の外出希望も可能な限り支援している。	

グループホームけやき荘 (A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は所持しておらず、本人が希望される時はスタッフ又は家族が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話をしたり、手紙のやり取りが出来ない状態なので、今後の課題として支援していく。(年賀状、暑中御見舞いなど)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	草花を生けたり、壁には入所者と職員で作製した貼り絵を飾り季節感を出している。	玄関は絵画や花が飾られ、軒先の干し柿からも季節を感じる事ができる。キッチンに続くリビングでは、職員が作る料理の音や匂いを感じながら、利用者が思い思いに過ごしており、季節の花や手作りカレンダー、利用者の作品が飾られ、生活感のある空間となっている。毎日、職員が掃除や空調管理を行い、快適に過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ・ソファ・食卓を設置。個々が好きな場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていた馴染みの物、使い慣れた物を用いる事で安心して過ごせる工夫をしている。	居室への持ち込みは自由で、家具や仏壇、家族の写真、テレビや時計等、利用者それぞれの馴染みのものが持ち込まれている。また、鉢植えやぬいぐるみ、趣味の作品など好みのものを飾り、落ち着ける居室を作っている。毎日職員が掃除や空調管理し、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー、廊下・トイレは手すり設置。浴室は一般浴槽で周囲に手すり、床はスベリ止めマット等を使用している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200620		
法人名	特定非営利活動法人 ASA陽		
事業所名	グループホームけやき荘(B棟)		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町小串郷1960番地		
自己評価作成日	平成28年10月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の小学校・中学校・保育園、老人会等多方面との交流が継続されており、地域外との交流も広まり野外コンサートなどにも参加する機会もある。家族との交流の場においては、誕生会や慰問がある時、招待している。近場の足湯に行ったり、地域で行われる季節の行事等に数多く行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームでの生活が在宅で生活されていた頃の状況に近づけるような支援、地域の中で暮らしていると感じられるような支援を心がけながら、地域との関係を密にしていくなで相互の信頼が得られ、連携がとれるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(清掃、老人会、グランドゴルフ、夏祭り等)には常に招待や参加依頼もあり、交流も継続的に行われている。保育園、小中学校との交流の機会も毎年広がってきており、町内以外の方との新しい交流もさせて頂く機会もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議へ参加して頂いたり、ホームの行事への招待等も継続的に行ったり、地域行事への参加などさせて頂く中で、ホーム状況や認知症への理解をして頂けるような取り組みをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告を行い、地域の方々との交流の場を持ちながら、家族や地域との連携につなげながら、意見や要望を聞き活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場職員と常に連絡を取り合い、推進会議等にも参加して頂き、アドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを常に職員同士で考え、研修への参加も行き、スタッフ会議での報告が日常でのミーティングでも共有するようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について常に職員同士で考え、研修への参加をし、学ぶ機会を持つようになっている。精神的な虐待とならないケアや言葉遣い等もスタッフ会議等で確認しあっている。		

グループホームけやき荘 (B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政等からの資料や勉強会などへの参加をしたりしている。必要と思われる利用者へは行政と相談しながら対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される時は利用者と家族に契約説明を行い、納得・理解していただいた後、入所されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や運営推進会議等に参加してもらう時など状況の説明をし、意見や要望を聴くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案など勤務中やスタッフ会議・勉強会等で聴き、取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に給料面の説明を行ったり、個別に要望を聴いたりして対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修になるべく多く受講できるようにしている。スタッフ会議での報告会や報告書綴りも職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での状況報告や事例検討を通して他施設の意見や経験をケアに活かしている。勉強会への参加により、交流を持つ機会ができ、サービスの質向上に活かすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活の様子を聴きながら不安や困っていることに向き合う姿勢や本人から受け入れてもらえるような信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が何に困っているのか安心納得できるまで十分に耳を傾け、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と面談を重ねながら、相互から信頼を得られるように努め、本人や家族の思いを傾聴して必要な支援を提供できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人と共に共有する時間や機会を作りながら、本人の思いに共感できるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活の様子など小さな事柄も家族に伝え、家族との語らう時間や共有できる行事などセッティングして本人と家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの生活歴等の情報を聴きながら、地域行事への参加や理髪店等の利用も継続した支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや食事やお茶の時間等では、職員と一緒に過ごし、良い環境で楽しく過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された利用者や家族の相談なども応じたり、近況をお伺いしたりする機会をもっている。行事などへの招待や声かけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おひとりおひとりの思いを把握できるように常に寄り添った支援を行い、希望や意向に近づけていけるように心がけている。自室での関わりも多くもてるよう工夫している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の気にされている事、苦手な事など把握しながらその人らしさを大切に、支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックを基に本人の表情・動作等にも注意しながら、現状の把握に努め、本人のペースを保ちながら生活してもらえるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスは職員全体で行い、意見、支援しながら本人や家族の意向に反映した計画を立てるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、水分量、食事量など個別で記録し、異変など常に職員間での情報の共有ができるよう、伝達の徹底や申し送り帳への記録等で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望する外出・外泊など柔軟に対応したり、家族の状況に応じて通院や送迎等の必要な時は柔軟に対応している。		

グループホームけやき荘 (B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サロン会、老人会等の参加や小学校・保育園等の交流の中で、地域の情報を提供して頂くことにより、意見交換ができ安心して暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望されるかかりつけ医への受診継続を支援し、病院との連携をはかり、体調変化時は早めに対応できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い体調や些細な表情や行動の変化に気をつけながら早めの受診や報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院での精神的な不安や混乱でのダメージが出たりすることもあるので、復帰に向けて医師との相談をしながら、早めに退院ができるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を聴き、主治医と連携をとりながらホームで対応し、できる限りのケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力のもと、心肺蘇生の研修や実習に職員全員で参加し、身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防署、消防団、地域の方との連携をはかりながら消防訓練、避難訓練など利用者も一緒に参加し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いを聴き入れながらプライドを傷つけないように配慮したケアをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりの状況に合わせて、思いを話していただけるような言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のやる気や体調を見ながら、レクリエーション、外出、手作業など職員が寄り添いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは、本人の好みの服を着て頂いており、状況的に困難な方には言葉をかけながら希望にそって支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえなどに参加してもらったり、季節で楽しむおはぎ、まんじゅう等は職員と一緒に作り食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮して本人の体調に応じた量や携帯を準備して支援し、水分摂取はお茶だけではなく、コーヒーやココア、ジュースなど加えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ひとりひとりに声かけしたり、困難な方には見守り介助している。		

グループホームけやき荘 (B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しながらトイレでの排泄支援をし、その方に応じた排泄の動作の支援や紙パンツやパッドの使用を考えながら支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に食物繊維の多い食材を取り入れたり、乳製品を使い工夫し、水分もこまめに摂って頂きながら運動等もとり入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェックを行い、本人の希望や状況によって楽しんで入浴して頂くよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により自由に休息をとられている。日中はレクリエーション等や適度は運動をとり入れながら、就寝をスムーズに出来るよう生活のリズムを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを職員が確認しながら服薬の介助を行っており、変更等も申し送りにて再確認している。薬は飲み込み完了まで見守り確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや生花、裁縫など利用者それぞれの得意分野を生かし、張り合いをもてるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を取り入れ、家族の協力も得ながら墓参りや外食などに出掛けられるように支援している。		

グループホームけやき荘 (B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては、外出した際、自由に好きな物を買われたり、欲しい物の希望があれば一緒に掛けて購入の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方から電話の申し出があれば自由に掛け、利用されており、家族や知人からの電話の取り次ぎなど行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の掲示板には利用者が創作された作品や写真など飾ったり、季節の花や野の花を利用者の方が生けられ、テーブルや洗面台などに飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で語られる玄関のベンチや外庭のベンチを利用したり、リビングのソファにて談話などされたり、気の合った利用者の方は居室のベッドに腰掛けられ談話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやテレビ等を置き、本人や家族が持ってこられた写真や手紙、手作りの小物など飾り、居心地が良く過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や立ちあがり安全に出来るよう廊下、トイレ、浴室に手すり取り付けや玄関のスロープもしている。居室の入口には手作りの名札や案内表示も入居者の見やすい場所に取っつけている。		